

氏名	松井 龍吉
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第325号
学位授与年月日	平成29年2月6日
審査委員	主査 教授 秋山 恭彦
	副査 教授 北垣 一
	副査 教授 神田 秀幸

論文審査の結果の要旨

脳卒中患者における頭蓋内動脈硬化性狭窄病変 (ICAS) の臨床的意義はこれまで多くの検討がなされてきたが、健常人における無症候性ICASの意義に関しては検討が殆どなされていない。今回、一般的な血管リスク因子に加えてICASおよび無症候性脳病変が、その後の脳卒中発症に関連しているかどうかを検討するために前向き研究を行った。対象は、脳卒中を含む神経学的異常所見がなく、本研究に参加するインフォームドコンセントが得られた2,807人 (男性1,497人、女性1,310人、平均年齢62.0歳) である。関連因子として年齢、性別、喫煙歴、飲酒歴、高血圧症、糖尿病、脂質異常症を検討した。血管狭窄はMR Angiographyで評価し、動脈直径の狭窄率によって、25%以下を正常、25~49%を軽度狭窄、50%~74%を中等度狭窄、75~99%を重度狭窄とした。さらに無症候性脳梗塞病変 (SBI)、脳室周囲高強度 (PVH)、深部皮質下白質病変 (DSWML) についても評価を行った。エンドポイントは、脳梗塞および一過性脳虚血発作を含む脳血管イベントの発生と定義した。本研究では、無症候性ICASは166人 (5.9%) で観察され、そのうち中等度ICASは42人、軽度ICASは124人に認められた。ICASの有意な危険因子は年齢、高血圧、脂質異常症であった。経過中 (平均観察期間64.5か月) 32人に脳血管イベントが見られ、非ICAS群に比しICAS群は有意にイベントが多かった ($P < 0.001$)。その年間発症率は非ICAS群で0.18%に対し、ICAS群では0.78%であった。Cox回帰分析では、イベント出現に対するハザード比は軽度ICAS群で3.04、中等度ICAS群で6.10であった。さらにICASはSBIおよびDSWMLの有無を調整した後においても、虚血性脳卒中イベントの独立した危険因子であった。本研究は、軽度から中等度のICASは、無症候であっても脳卒中の重要な危険因子の一つであることを明らかにした臨床的に重要な研究であり、学位授与に値する。